

JAMS の未来

立本成文

JAMS 創立以来、幹事、代表、会長と身にあまる栄を受けながら、その信頼に十分応えられぬままに、会長を辞することになった。

思い出をリフレッシュするために、JAMS News を紐解いてみる。マレーシア研究会会報 JAMS news は 1992 年 5 月に創刊準備号が出され、世話人の水島司さんの巻頭言がある。創刊号は 11 月に発刊され宮崎恒二さんの研究紹介がのっている。12 月に第 1 回総会が東京外国語大学で開かれ、翌年 3 月に第 3 号が出された。3 号には新たに幹事に選出された堀井健三さんと前田成文の挨拶が載っている。それから、石井米雄さんの「入門のごあいさつ」が巻頭に載っている 33 号までいろいろな情報が掲載され、それを書いた人の顔が思い出される。蓄積は力なりと言うが、本当に力強い会報に成長したと思う。

つぎの原不二夫さんに会長をバトンタッチするに当たり、みんながマレーシアという杭に艦綱を舳って楽しく過ごせればそれでよい、それ以上の引継ぎ事項はないと思う。

心はそうであるが、姿、形は、せつかくこれまで育ってきた JAMS であるから、もっと、もっと、外から見ても納得のいく在り様になっても良いと思う。すでに、「21 世紀のパラダイム—マレーシアと日本」(第 1 回 JAMS 公開セミナー、10 号)、「東南アジア地域概念とマレーシア」(総会報告要旨、16 号)、「マレーシア研究会 夢現」(23 号)、「日本マレーシア研究会の新しい発足に当たって」(29 号)などの拙稿で、折々の JAMS のあり方に対する思いを吐露してきている。終始、マレーシアという国家領域を対象とする研究と私の思う地域研究との齟齬に最初から違和感を持っていたのは事実である。しかし、ばらばらで一緒という気持ちを共有でき、楽しく総会を過ごせた記憶だけが残る。マレーシア研究会への期待は重ねて繰り返さないが、特に、正式に会長に選ばれてから、会長を支えてくれた(と言うよりは、会を引っ張っていった)今期までの運営委員が敷いた会運営の機能化、総会の実質化、『会報』の充実など、会員個人の実績とは

別に、大変重要な課題だと思う。

心を大切にしながら、形にこだわるという、心と姿の往還の営みを研究会、学会は背負っていかねばならない。それが研究会という「法人」、「団体」の責任であろう。会員の責任であると同時に、信を受けた運営委員会の腕の見せ所である。大変であろうが、頑張ってもらいたいものである。

日本マレーシア研究会が学会としての姿を見せるようになると、当然史学会ではない「東南アジア学会」との関係が問題になろう。「東南アジア学会」が「アジア学会」の一部ではないのと同じように、JAMS 独立路線を私は支持するが、それではそれなりの「違い」を見せる必要が会員に生じてこよう。是非そのようになって欲しいと願っている。

JAMS ウェブサイト立ち上げのお知らせ

JAMS では、2006 年 3 月に会の公式ウェブサイト『JAMS Online』を公開しました。『JAMS Online』が非会員を含む人々に広く JAMS の活動を紹介する場として発展し、また、それによって会報『JAMS News』の対象や性格がより明確になり、両者が相互に補完しながら発展していくことを期待します。

『JAMS Online』の内容を充実させるため、会員のみなさんからのご意見やご提案をお待ちしています。ウェブサイト管理人までお寄せください。

ウェブサイト管理人 山本博之

pejjams@mbn.nifty.com

JAMS Online——日本マレーシア研究会ウェブサイト

<http://homepage2.nifty.com/jams/>